



もり ひろし
森 寛史

職 名 教授

担当科目 経済統計論Ⅰ，Ⅱ，マクロ経済学，
ミクロ経済学，地域経済政策

研究テーマ 戦後日本の産業政策を制度という視点から理論と実態に即して比較分析することでその意義と限界について評価を試みることや産業政策の政策過程の分析を行ったり，1980年代後半以降進展目覚ましい「新経済成長理論」についての体系的把握並びにその理論の日本経済への適用可能性についての研究に取り組んでいる。

研究業績

- | | | |
|-----------|----------|---|
| 著書 | 2003年5月 | 『国際用語辞典』(学文社)，分担執筆 |
| 論文 | 1996年3月 | 日本企業の国際化と技術革新 (『実践経営』第31号) |
| | 1998年3月 | 日本の産業組織と政府の役割 (『実践経営』第35号) |
| | 2003年3月 | 教育と経済成長 (『明治大学政経論叢』第71巻 第3・4号) |
| | 2004年3月 | 高等教育大衆化についての一考察 (『那須大学論叢』第5巻) |
| | 2005年10月 | 地域の人口集積と産業構造 (『那須大学都市経済研究年報』第5号) |
| | 2008年3月 | 三全総から四全総へ 国土政策はどう変わったか (『宇都宮共和大学論叢』第9号) |
| | 2009年3月 | ITの評価を巡って—GPTの視点から— (『宇都宮共和大学論叢』第10号) |
| | 2014年3月 | 〈研究ノート〉農業の6次産業化・農商工連携と農業・農村振興 (『宇都宮共和大学論叢』第15号) |
| | 2014年3月 | 農業振興と6次産業化に関する—考察—栃木県のケースを中心に—共著 (国土館大学『経済研紀要』第26号) |
| | 2014年6月 | 栃木県における地域再生のための産業政策のあり方に関する調査研究—共著 (連合栃木総合生活研究所 [研究と提言シリーズNo.50]) |

社会的活動 所属学会での研究発表など

- | | | |
|-----------|----------|-------------------------------------|
| 略歴 | 1976年3月 | 横浜市立大学文理学部数学科卒業 |
| | 1977年4月 | 千葉県公立高校教諭 |
| | ～1999年3月 | |
| | 1990年3月 | 明治大学大学院政治経済学研究科博士前期課程修了 (経済学専攻) |
| | 1994年3月 | 明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程単位取得退学 (経済学専攻) |
| | 1994年4月 | 明治大学政治経済学部兼任講師 |
| | ～1996年3月 | |
| | 1994年9月 | 筑波大学医療技術短期大学非常勤講師 |
| | ～1999年3月 | |
| | 1999年4月 | 那須大学都市経済学部助教授 |
| | 2006年4月 | 宇都宮共和大学シティライフ学部助 (准) 教授 (大学名称等変更) |
| | 2010年4月 | 宇都宮共和大学シティライフ学部教授 (～現在に至る) |

所属学会 日本経済政策学会，東アジア経済学会，日本経済学会 他

自己アピール 上記の研究テーマを発展させて，これまで経済学の基礎理論から欠落している地域を実体的に取り入れた産業政策，つまり「地域産業政策」の基本的分析枠組みについて栃木をモデルケースとして考えて行きたい。更に，地域産業政策と経済成長との関連づけを「地域産業連関分析」を一つの手がかりとして適用することで実証的に明らかにしたいと思っています。